

2019 専門部会第二次研究協議会

“協働”研究の成果を日々の実践に生かしましょう！

今年度の専門部会研究の成果の一端を紹介しています。詳しくは、研修センターに保管している各部会のレポート集、公開授業の映像データ等をご活用ください。貸し出しもできますので、お気軽にご連絡ください。

各部会の“協働”研究の成果を全会員で共有し、一人一人の研究に対する意欲を高めるとともに、新たな課題を見だし、より一層実践の質を向上させていけたらと考えています。

国語（小）

今年度は、説明的文章を通して「表現のスキル」系統表を活用し、身に付けさせたい力を明確にした授業づくりを進めました。公開授業では、2年生において、「いつ・どこで・どのように」という言葉に着目して言葉の順序を意識した表現活動を行いました。3年生では、要点をつかむ力をつけさせ、相手に伝わる文章を書かせる活動を行いました。5年生では、自分の根拠を明確にした作文に取り組み、互いに交流し、考えを深め、より分かりやすい表現方法の工夫を取り入れていました。

6年間を見通した説明的文章教材の「表現のスキル」系統表は、部会ホームページに掲載されていますので、実践レポートと併せてぜひご活用ください。

社会（小）

今年度は、千歳市で公開授業を行いました。北陽小の3年生では、地域の商店を教材に、また、桜木小の5年生では、地域の「千歳民報」を教材として授業を行いました。地域の素材を生かした授業をすることで、社会的事象と自分たちとの「つながり」を意識し、子どもたちの主体的な学びを得ることができたことは大きな成果です。また、日の出小の6年生では、明治時代について、「自分ならどうする」と一人一人に意見を持たせながら当時の暮らしについて理解を深めました。資料等も効果的に活用し、今後の実践に大いに参考になるものとなりました。

各市町村のレポートは、研究主題に沿った範囲で様々な工夫が見られ、多様な視点で研究を深めることができました。ぜひご覧いただければと思います。

算数

今年度の授業研究を通して、数学的な見方・考え方を働かせる手立てについて、昨年度よりも「数理的処理のよさに気づかせる場面設定」に関する部会員の理解が深まり、「よさ」に焦点化した話し合いを進めることができました。

また8月に実施した実技・理論研では、「教師のコーディネート力」を磨くことが、対話的な学びを生むことにつながる事が確認され、日常実践へとつなげていく道筋を作ることができました。

各市町村での実践や提言などは「実践資料集」として、中心サークルでの授業は「指導案集」として、部会員はもちろん、多くの教職員が参考にできるような資料としてまとめることができましたので、ぜひ活用していただけたらと思います。

理科（小）

今年度は、新学習指導要領を意識するために、理科の見方を使った「予想の立て方と生かし方」について研究を進めてきました。理論研修会では、「理科の見方・考え方」や「今年度の研究の概要」について共通理解を深め、実技研修会では、教材教具の工夫について学ぶことができました。研究協議会では、中心サークルである千歳市の授業公開や、各市町村の授業実践を通して、「予想をもたせるための手立て」について交流することができました。理科の授業における「振り返り」についても、その実践や今後の課題が明らかとなり、来年度の研究を深めるものとなりました。また、毎年好評である教材教具の工夫を交流するアトラクションでは、今後の授業づくりに生かせる有意義な交流となりました。

生活科

恵庭小での研究授業では、2年生の児童が、ゴムや風、磁石などの動力に視点を置いたおもちゃを作り、それぞれのおもちゃを使って考えたゲームで遊び合いました。その後、より楽しい遊び方について互いにアドバイスを出し合い、さらに楽しい遊び方への工夫をつなげていきました。

生活科においては、活動の目的や視点を明確にし、その活動を繰り返し行うことで一度の体験よりもより多く、質の高い気付きが得られるという報告がなされています。活動後の振り返り、子ども同士での気づきを共有、交流することで新たな気付きを得て、次の活動への目標や意欲が高まると考えられます。今回も各市町村のレポートは課題解明に向かう素晴らしい内容です。今後の実践にご活用いただければと思います。

図工・美術

3つの公開授業では、子どもたちが笑顔で、時に真剣な表情で授業に向かう姿が見られました。授業を創りあげる上で、題材の工夫や子どもへの思い、イメージの実現を支えるための仕掛けや工夫がなされ、表現意欲が高められていたからであると考えます。

また毎年好評の実践アトラクションについては、今年度も60分間で開催しました。各市町村の代表者が、授業に生かせるものづくりなどに取り組んでいました。新たな素材や、よくある素材の多様な活用法まで、題材・授業を考える上でのヒントがたくさんありました。今年度も3ブースほど業者の方に出展していただき、体育館は大変な盛り上がりとなりました。

保体（中）

研究授業では、ICTを活用した主体的・対話的な学習を引き出す実践について研修を深めました。対話に使う時間と運動量のバランスが非常に難しく、事後研修では、部会員の考え方も多様であり、そのバランスの在り方について大変有意義な意見交流ができました。

午後の実技研修では、花川南中のソフトボールのゲーム方法について体験し、今後の実践に生かすことのできる充実した内容となりました。全会員が活発に意見交流しあうことができ、部会としての研究の深化だけでなく、部会員それぞれの課題に対する解決の一助となりました。

理科（中）

今年度は、実験・観察の見直しを図りつつ、新学習指導要領を意識した「深い学び」につながる授業づくりを進めました。研究授業では、実験器具を工夫して主体的な学びになるように、また探求の過程を意識し生徒の対話を促すジグソー学習的な要素を取り入れた、いずれも提案性のある授業が発表されました。教育課程研究においては、新学習指導要領に向けて、これまでの授業づくりにおける課題を明確にし、解決策を提案できたことが成果として挙げられます。実技研修会でも環境教育の視点をもったフィールドワークを通して、自然について考察する機会をもつことができました。レポート集では、古いCDを利用した簡易偏光顕微鏡によって、岩石の観察をより詳細にできるように工夫した内容のものなど興味深いものが多くあります。ぜひご覧いただければと思います。

音楽

花川小では、五音階を使って4拍や8拍のモチーフを作り、まねっこやしりとり、リレー、重ねるを組み合わせてまとまりのある音楽を作る授業が行われました。花川北中では、癒しの楽器「カリンバ」を使って班でアンサンブル発表をする授業でした。「音楽づくり・創作・鑑賞」を研究内容としていますが、実践例が少ない中、大変参考となる授業になりました。

午後の実技研修会では、中学校の先生が講師となり、発声を意識した「Let's search for Tomorrow」の指導と魂で歌う「大地讃頌」と「ふるさと」の合唱に取り組みました。各市町村から紹介されたおすすめ教材は今後の実践に大変役立つものですので、ぜひレポート集をご活用してください。

保体（小）

低・高学年それぞれで授業公開を行い、それをもとにグループに分け、KJ法で事後研修を行いました。活発に意見が出されより学びを深めることができました。

午後からは、各市町村での公開授業の様子をDVDで見ながら、各授業についての紹介を行い、研究主題に迫った「学び合い、高め合える」子どもの様子を見ることができました。また、実技研修会では、「フロアボール」という新しいスポーツを講師に紹介していただき、ラジオ体操を使った表現運動やサッカーの指導方法など、今後の実践に生かすことのできる内容となりました。各市町村で実践された授業研究のレポートとその事後研修のまとめをぜひご活用ください。

技術・家庭

家庭分野の授業では、課題解決の時間確保のため、授業展開を工夫し、生徒一人一人が実生活と結び付けて考え、自分の経験や身近な体験から最速解を見いだせるように授業づくりが行われていました。技術分野の授業では、課題に対し、予想を立て、実際に試行錯誤しながら課題解決していく内容でした。教材の準備など今後の実践に生かすことのできる研究授業となりました。

午後の分科会では、次年度的全道大会に向けての研究について意見交流することができ、新学習指導要領への対応についても、部会内ですっきりと理解し、共有することができました。即実践として活用できるレポートが多数ありますので、ぜひご活用ください。

障がい児教育

言語部門では、グループごとに事例検討を行い、それぞれが言語指導についての資質を高めることができました。明日からの実践に生かすことができるものとなりました。

肢体部門では、VTRによる授業実践交流において、小中学校の様子や多人数、多障がいの児童の様子を見ることで話題を広げることができました。

知的部門では、ダンス講習会が行われ、短時間の中で話題曲の振りを楽しく指導していただき、子どもたちが楽しめるダンスとして今後の実践に生かすことのできる内容となりました。

自閉・情緒部門では、自立活動を中心にレポート交流を行い、コミュニケーション能力を高めるための取組について研究を深めました。また講演では、発達障がいについての基礎的な理解と心理面への支援について学びました。

養護教諭

8月の実技研では、学校が避難所になった時の様子や、養護教諭としての対応、日頃の防災の準備などについて学びを深める機会となりました。

研究協議会では、「子どもの問題をみる3つの見方」について学び、子どもの理解や対応について研修を深めることができました。また当別・新篠津ブロックのレポート発表では、アレルギー対応について、各校の実践を交流し、保健指導のための食物アレルギー学習ノートや、緊急時記録用のアレルギーチェックシートの作成などの研究が発表されました。

ブロック研究は、会員一人一人の実践の積み上げであり、すべてのブロックからレポートが発表されています。これらの成果と課題が広く環流されることにより、各校での今後の実践に大いに活用していただけたらと考えます。

事務職員

継続研究として「保護者負担の公費化」の取組の「可視化」から「可視化」した資料（データ）の蓄積を通して見せる・発信することを研究の方向性として意識した取組が、各市町村で行われていました。他職種や保護者等への取組発信方法として、「教員や保護者向け事務便り」、「ホームページを利用しての市内全校の学校予算の公開」、「予算要望委員会への調査資料の提示」等、各市町村の工夫を交流することができました。

また学校職員として防災に必要な知識についての講演では、災害時に事務職員としてどのように関わることができるのかを知ることができ、今後の備えとして大変役立つ内容となりました。

英語

研究授業では、研究主題にあるコミュニケーション活動を十分に取り入れられ、その後の研究協議も多くの意見が出されるなど、活発な話し合いとなりました。

午後からのワークショップでは、江別市のALTの先生方に講師になっていただき、多くのアイデアを紹介していただき、今後の実践につながる内容となりました。楽しいものが多く、特に小学校の先生方にとっては、授業づくりのヒントとなりました。

分科会では、レポート発表だけにとどまらず、体験型ワークショップ形式、模擬授業形式で進められ、有意義な話し合いとなりました。レポート集には、日々の授業に役立つ内容が多くあります。ぜひご活用ください。

栄養教諭

研究授業では、大豆を題材に、大豆の栄養豊富なよい面の確認から、身近な大豆製品について考えさせ、給食などにおいて多様な形で提供されていることを学びました。子どもたちは、様々な視点から自分の健康や成長について考えることができ、自分の体験をもとに学習できる実践となりました。

また講習会では、栄養教諭として防災に必要な知識について、災害時の役割や今後に向けた課題など身近な問題として考えていかなければならない多くのことについて研修を深めることができました。

市町村レポートでは、地域の食育についてまとめられております。ご覧いただき、食に関する指導についての理解を深めていただければと思います。

石教研ホームページにも、研究協議会当日の各部会の様子が紹介されています。ぜひ各部会のホームページをご覧ください。また、部会のレポート集や公開授業の映像データは、研修センターにて保管しています。貸し出しもできますので、ぜひ有効にご活用ください。

来年1月31日発行予定の『石狩の教育』第65集では、各部会の研究成果を掲載します。今後の実践の参考にしてください。

みんなで創りあげよう
石持の“協働”研究

すべては石狩の子どもたちのために…

みんなで創りあげよう
54th
since 1966
石教研